

早稲田大学審査学位論文

博士（人間科学）

概要書

相互評価を導入した
大規模公開オンライン講座の設計および
その評価と学習者特性との関連

Design of Massive Open Online Courses
with Peer Assessment and the Relationship
between Evaluation and Learners' Characteristics

2017年7月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

渡邊 文枝

WATANABE, Fumie

研究指導教員： 向後 千春 教授

論文概要

本研究の目的は、相互評価を導入した MOOC (Massive Open Online Courses ; 大規模公開オンライン講座) をインストラクショナルデザイン (Instructional Design, 以下 ID) に基づいて設計・実践し、その評価と学習者特性との関連を検討することであった。本研究は、次の3つから構成される。1つ目は、MOOCにおける相互評価の設計のための予備研究(第2章)、2つ目は、IDに基づくMOOCの設計(第3章)、3つ目は、第3章で設計した相互評価を導入したMOOCの実践およびその評価と学習者特性との関連(第4章)である。

第1章では、本研究の背景と本研究のテーマであるMOOCとeラーニング、相互評価、IDに関する研究について概説した。また、本研究の目的と構成についても言及した。

第2章(研究1)では、MOOCの1つであるJM00Cの講座において、学習者同士の相互評価を導入し、大規模なオンライン環境における相互評価の教育効果と設計時の留意点について検討した。講座の受講期間は4週間であり、受講登録者は12068人であった。相互評価を行った感想に関する自由記述について、KJ法により分類した結果、相互評価に関する肯定意見としては、理解の深化、相互評価の仕組みに対する満足感、新たな視点の獲得に関するコメントが多く挙げられた。このことから、相互評価の導入は、学習者の主観的理解度や満足感を高めることにつながる可能性が示唆された。一方、相互評価に関する否定意見としては、負担の大きさ、評価の難しさ、評価人数の多さに関するコメントが多く挙げられた。このことから、相互評価を導入する際には、学習者への負荷が高くなりすぎないように考慮して設計する必要性が示唆された。

第3章(研究2)では、第2章(研究1)で得られた留意点を踏まえて、相互評価を導入したMOOCをIDに基づいて設計した。講座の内容は、アルフレッド・アドラーが提唱する「アドラー心理学」に関するものとした。設計にあたっては、ID手法の1つであるガニエの9教授事象を取り入れた。講座は5単元から構成された。各単元の流れは、(1)オンデマンド講義による「導入のレクチャー」の視聴、(2)個人ワークの実施、(3)オンデマンド講義による「解説のレクチャー」の視聴、(4)理解度確認クイズへの解答、(5)レポート課題の提出、(6)相互評価の実施、(7)オンデマンド講義による「まとめ」の視聴、とした。

第4章（研究3，研究4）では，第3章（研究2）で設計した相互評価を導入したMOOCを実践し，その評価と学習者特性との関連を検討した．講座の受講期間は5週間であり，受講登録者は3529人であった．研究3では，学習者の特性として着目したeラーニング指向性と相互評価指向性（相互評価への信頼感，相互評価の有用感）が学習継続意欲と講座評価にどのような影響を及ぼすのかについて検討した．その結果，eラーニング指向性は，相互評価の有用感と学習継続意欲，講座評価に正の影響を及ぼすことが示された．相互評価指向性においては，相互評価への信頼感から講座評価に正の影響を及ぼすことが示された．相互評価の有用感も相互評価への信頼感と学習継続意欲，講座評価に正の影響を及ぼすことが示された．また，相互評価の有用感も，学習継続意欲と講座評価に対して最も大きな正の影響を示した．これらのことから，eラーニング指向性と相互評価指向性は学習継続意欲と講座評価に寄与することが示唆された．また，本モデルの結果から，eラーニング指向性は各変数に対する起点となることが示唆された．すなわち，学習者のeラーニング指向性を高めることで，相互評価指向性と学習継続意欲，講座評価を高めることにつながる可能性が示唆された．

そこで，研究4では，eラーニング指向性の向上を図るための示唆を得るために，研究3と同様の講座を対象として，学習者のeラーニング指向性の変化とeラーニング指向性の項目間の因果関係について検討した．その結果，eラーニング未経験者は，eラーニングの講座を修了することにより，eラーニング指向性が向上する可能性が示唆された．また，交差遅延効果モデルによる分析の結果，eラーニング指向性の「孤独」が重要な要因になっていることが示唆された．そのため，eラーニング指向性を高めるためには，学習者の孤独感を軽減させられるような工夫を講じる必要があることが示唆された．

第5章では，本研究により得られた知見を総括し，今後の展望について述べた．本研究の結果，MOOCにおける学習者の学習意欲の向上と学習者特性を考慮した講座設計に関する有益な示唆が得られた．また，今後の展望においては，MOOCにおける学習者の孤独感軽減のための支援方法の検討，相互評価の質向上の検討，本研究から得られた知見の一般化可能性の検証を行う必要性について言及した．